

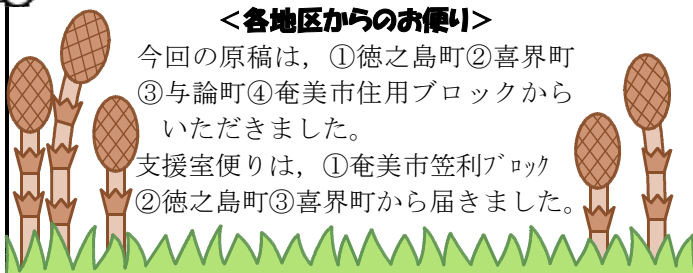
大事協だよい

大島地区公立小・中学校
事務職員協会 研修部
第52号
2016年 2月26日発行

<各地区からの便り>

今回の原稿は、①徳之島町②喜界町
③与論町④奄美市住用ブロックから
いただきました。

支援室便りは、①奄美市笠利ブロック
②徳之島町③喜界町から届きました。



①徳之島町事務職員会

徳之島町立井之川中学校 原田 雅子

こんにちは、徳之島町事務職員会です。

平成27年度は「学校事務の効率化・標準化」を研修テーマに、10名で活動しています。年6回計画されている研修会では、共同実施に関する報告や、事例報告等を通して、活発な意見交換を行っています。

徳之島町は小学校が8校、中学校が6校あり、北ブロック支援室と南ブロック支援室に分かれ、月2回程度活動しています。主に諸手当認定事務審査、給与・旅費事務審査、広報誌の作成を活動内容としていますが、年末調整や就学援助事務等、時期による事務処理の相互点検や受給権調査も行っており、新採支援の場にもなっています。



また、事務職員未配置校がある北ブロックでは、未配置校への教育支援を行ったり、南ブロックでは年に1回各学校を訪問して施設点検等意見交換を行ったりするなど、ブロックごとに特色ある活動も進めています。

私たち徳之島町事務職員会は、懇親会を実施するなど、日頃から親睦を図っています。これからもメンバー全員協力して頑張りたいと思いますので、皆様どうぞよろしく願いいたします。



※追伸：北ブロック支援室は1月13日から管外研修で出水・鹿屋・霧島と鬼のような日程で県内を縦断してきました。



②喜界町小・中学校事務職員会 喜界小学校 事務職員 西木場 真一

喜界町学校事務職員会は中学校1校、小学校2校があり、それぞれ1名在籍しています。合わせて3名と人数が少なく、また、平成27年度の人事異動で新採期限付職員が早町小学校に赴任しました。そこで、本年度の活動としては早町小学校の事務支援を中心に、各学校で適切に事務処理ができるように相互支援が主な取り組みとなっています。

事務職員会の現状は、「学校事務支援室業務の推進と事務職員の連携を図る」を年間テーマとして掲げ、県費・町費関係事務の効率化と事務改善や各人の事務処理スキルの向上をめざしています。また教育支援につながるように事務職員として教育現場にどのように向き合っていけば良いか、各校の情報交換を行いながら模索しているところです。

具体的には、就学援助費の口座振込による支給事務の改善と事務処理の効率化を行いました。また、支援室も月2回程度、喜界小学校で実施しており、相互自主検査を各校に直接訪問して実施したり、旅費や実績手当の点検を行ったりと、できることから少しずつ進めている状況です。小さな組織ではありますが、その柔軟性を活かして、これからも町費における事務改善を中心に効率化を進めるとともに事務職員の連携を図っていききたいと思います。



～新規採用者の声～

喜界町立早町小学校 有村 玲那

期限付事務職員として早町小学校に赴任してから約10ヶ月が経ちました。喜界島に来てから暑さや虫の多さなど驚くことだらけでしたが、そんな喜界島生活もあつという間に過ぎ、もう一年が経とうとしています。

学校事務に関して喜界中学校・喜界小学校の先生方には毎日のように質問をし、詳しく答えていただきました。支援室ではほぼ私の質問で時間が過ぎていったことが大変申し訳なかったと思うと共に、お二人にはとても感謝しています。

早町小学校の子ども達の明るい笑顔と笑い声に毎日元気をもらい、また運動会・文化祭などの行事や学校生活を通し、子ども達の成長を間近で見る度に感動をもらいました。学校の先生方には何もわからない私に、事務職員として、学校に携わる者として、また1人の社会人として多くの事を教えていただきました。そんな早町小学校の子ども達や先生方に囲まれ、支えていただきながら毎日楽しく過ごしております。

今年度も残り僅かですが、子どもたちや先生方と笑顔で楽しく、努めていきたいと思っています。

③与論町事務支援室

南の島からこんにちは。与論町事務支援室です。

与論町は今年度の人事異動で1名が異動となり、新たな室長を迎え、4人でスタートしました。月に2回執務室のある与論中学校で支援室定例会を行っています。4人中3人が新採ということもあり、勉強を含めた旅費請求書の相互点検、各種手当の認定、質疑応答などが支援室業務の中心となっています。児童手当の現況届確認や年末調整事務なども各時期に実施し、互いに漏れがないか確認しています。

また、8月には合同安全点検を実施しました。昨年度より町教育委員会の方々と共に各学校を回るようにしました。教育委員会と回る事で危険箇所の周知、今後の方針等の共通理解、速やかな予算化、そして修繕へと繋げるためです。今年度も修繕が済んだ箇所や来年度予算で対応するなどの方針を決め、成果を上げています。

本町は少人数の支援室ではありますが、その分各学校や教育委員会等と綿密な連携が図れています。今後も『最南端は最先端』を目指し頑張っていきたいと思っておりますので、皆様よろしくお祈りいたします！



ウドノス海岸

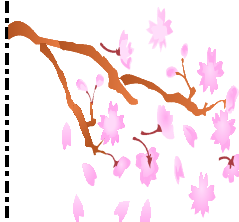
④奄美市住用地区学校事務支援室

昨年度同様月2回をベースに、各学校の学校行事等、事務職員不在でさしつかえない日を選び、月曜日をさけての午後に、3時間程度共同業務を行っている。

昨年度から続く子どもたちにも目に見える活動・・・執務室の清掃。支援室業務開始時間と執務校のある住用小の清掃時間が重なるため、昨年度から全員で、お世話になる執務室の清掃を行っている。近くで児童が廊下や教室を清掃するわけで、児童たちにもいい見本にもなるし、部屋はきれいになり、気持ち良く業務にあたることができ、一石二鳥である。ちなみに終了時にも机上台ふきで拭き、相談室としてもつかわれている執務室の整理を済ませ閉会するよう心がけている。最近目は目の前にある3・4年生教室の子どもたちから、支援室の机上台はほこりもないと感心されている。

奄美市は総合支所方式という合併をしているので、奄美市の中でも名瀬、住用、笠利は市費事務処理の仕方が違う事がある。特に住用地区は取扱いが違うので、地域教育課との連携をさらに強化しなければいけないという思いがあり、今年度も、担当者にも支援室に参加していただくよう要請した。

毎回ではないが、参加してもらえる事もあり、就学援助事務の取扱い等の説明を受けながら市費関係事務の研修ができた。



～定年退職を迎える先生より～

定年退職します

大田布中学校 加川 純男

38年間、無事に過ぎました。職員数12名前後の小規模校？を7校経験しました。職場の先輩、事務職員の先輩にも恵まれ、多くの同僚を知ることが出来ました。とても恵まれた38年間だったと思います。このことばがすべてです。

新採として奄美群島に配置された20名のうち、1人だけ残りました。徳之島を拠点に、与路島、大島本島を経験することにより、人事の先取りもしてきたようです。その中で、特に36年前の与路島での経験は初めてのことが多く、職場も私生活も一緒に3年間でした。電話はない、2ヶ月近くの断水、年に一度のトイレくみ取り、今まで経験したことのない生活を最初の2年間で経験しました。3年目はとても短く感じました。次の3校は7年以上というゆったりとしたサイクルで経験を積むことが出来ました。瀬戸内町、徳之島町、天城町と町が変わることにより、仕事内容が変わることに戸惑いもありました。給与、旅費に関してはどこに行っても同じではあるが、その他の仕事(校務分掌)に関しては町、学校によって違ってきます。

給与振込になったことにより、資金前渡職員の意味がなくなってきたことがとても残念です。自分が給与支給日に学校を不在にしたことは二度だけでした。一度は義父の葬儀が期末勤勉手当支給日と重なり、教頭に依頼しました。もう一度は運動会の後片付けだけがをして4ヶ月入院した時です。このときは隣接校の先輩事務職員にお世話になりました。毎月を中心になる仕事が給与支給日にあると感じるぐらいでした。現在は現金受領の仕方を忘れないために、自分の期末手当を一部現金受領するようにしてあります。特に郵便局受領ということもありますが。

現在の電算入力システムについていけるのは、ワープロ、パソコンと早くから取り入れてきたからではないかと思えます。花徳小時代に、和文タイプライター、計算機能付きワープロ、そして、パソコン購入とお金もかなりかけた気がします。初任の頃の先輩はソロバン、電卓が得意な人が多く、その上、文字もきれいでした。文字も汚く、電卓も早く使えない自分にとっては器械に頼るしかないと思いました。ただ、時の流れが緩やかであった分、慌てなくてもよかったです。でも、今はどうでしょうか？

先輩に教えられたことを、後輩につなげていけたのか疑問ではありますが、自分の経験を少しでも知らせることが出来ればと思っています。

ありがとうございました。

